

# 事例報告

特別支援学校中学部生徒が、具体物を見て  
該当する形容詞を答えることができるよう  
になるための指導

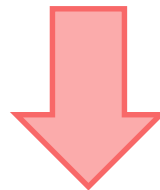
# 生徒の実態

- 学校生活では、文字のスケジュールを使用している。
- 発語があるが、不明瞭である。相手に聞き返されるとボリュームを上げたり、手を叩いて音韻を意識しながら発声したりして、相手に伝えようとする場面が見られる。
- 「〇〇先生とダンスしたいです」等、3語文で遊びの要求をする練習をしている。
- 写真や教員、保護者の行動を見て、「〇〇先生が連絡帳を書いている」など、他者に伝えることを楽しむ場面が多く見られるようになってきた。
- 衣服が水で濡れたときに、「びちょびちょなっちゃった」と報告することがあるが、その他の場面で形容詞を使用することはほとんどない。
- 日常のコミュニケーションは受動的である。遊び場面でも友達と遊びを共有することはほとんど見られず、教員との1対1の遊びを要求することが多い。

# 教員の願い

自分のことばが伝わって嬉しいという経験をさらに重ね、他者とのコミュニケーションに対する意欲を高めてほしい。

表出語彙のレパートリーが増加し、表現の幅が増えることで、他者にことばで伝えたいという気持ちを育てることにつながるのでは？



AI - PAC俯瞰図の中のコミュニケーション（叙述-概念）  
「形容詞」をターゲットに取り組むことに。

# 指導①

**目 標** イラストカードを見て，当てはまる形容詞を答えることができる。

**期 間** 9月9日～11月8日

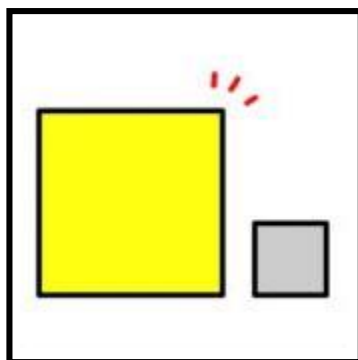
**指導場面** 課題学習場面

**指導方法** 対義の形容詞（大・小等）のセットで指導する。  
3つのStepに分けて指導し，各Stepでセットの形容詞2つとも3回連続正答できたら次のStepに移行する。  
以下3点はすべてのStepで共通の手だてとする。

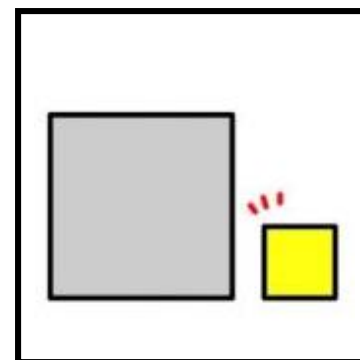
- ・ 正反応時には大きく称賛する。
- ・ 同一形容詞で誤答が3回続いたときは，用いる教材を変更して指導する。
- ・ 形容詞カードを指さす順番は指導日ごとにランダムとする。

# 指導① 使用したイラストカード

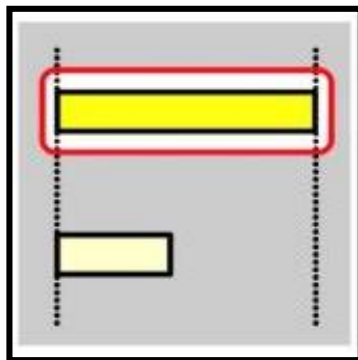
大きい



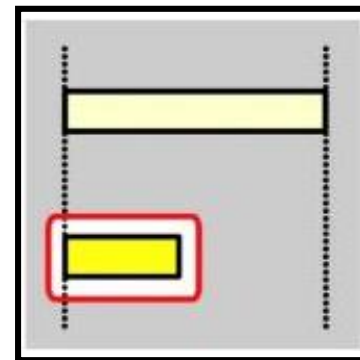
小さい



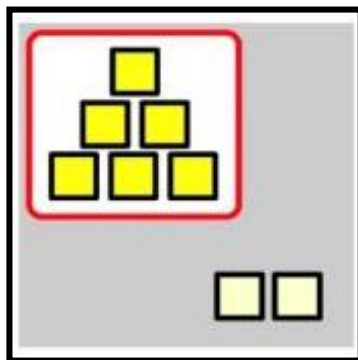
長い



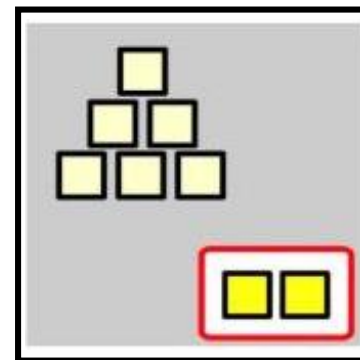
短い



多い



少ない





# 指導① 記録の方法

各形容詞ごとに，以下の基準でリストに記録する。

- ヒントなしに，正答できた
- △ 指さしや音声のヒントで，正答できた
- × 指さしや音声のヒントでも，正答することが難しかった

## Step1 「大きいのどっち？」

	9月9日	9月24日	9月29日	9月30日	10月1日	10月5日	10月6日
大きい	○	△	○	○	○	○	○達成
小さい	○	△	○	△	○	○	○達成
長い	○	○	○	○	○	○達成	Step2へ 移行
短い	○	○	○	○	○	○達成	
多い	○	○	○	△	○	○	○達成
少ない	○	○	○	○	○	○	○達成

 セットの単語2つ  
連続3回達成  
 3回連続誤答のため  
次回絵を変更

## Step2 「大きいかな，小さいかな？ これは？」 ヒント「お○○○」「ち○○○」

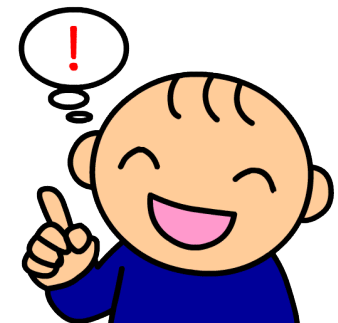
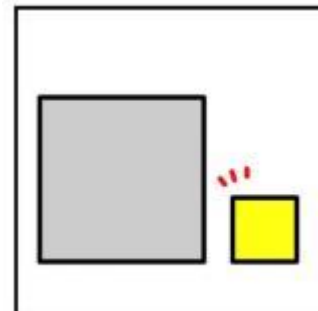
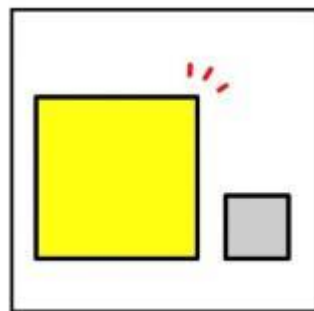
	9月9日	9月24日	9月29日	10月7日	10月12日	10月13日	10月14日	10月15日	10月20日	10月21日	10月28日
大きい	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○
						おい			おい		
小さい	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
								ち			

# 指導① Step 1の手だて

## <Step 1>

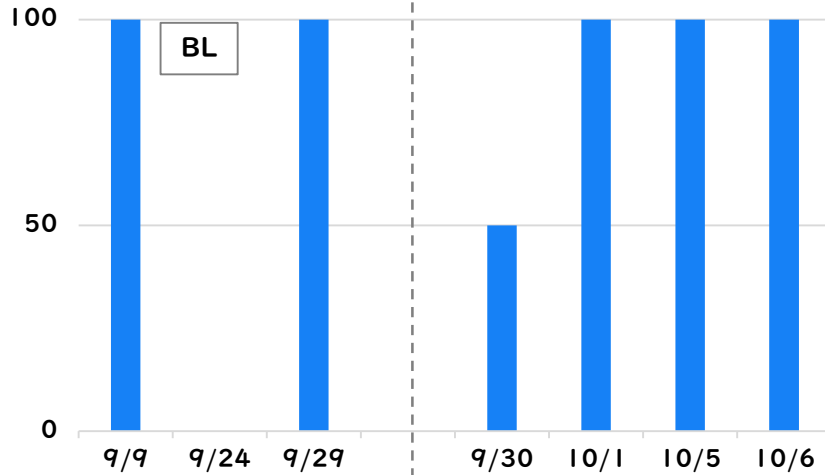
- ・ 形容詞カード2枚を提示して、「大きいの、どっち？」と尋ねる。
- ・ 異なる形容詞カードを指さしたり、反応が見られなかった場合には、正しい形容詞カードを生徒側手前に提示した状態で、再度尋ねる。

大きいの、どっち？

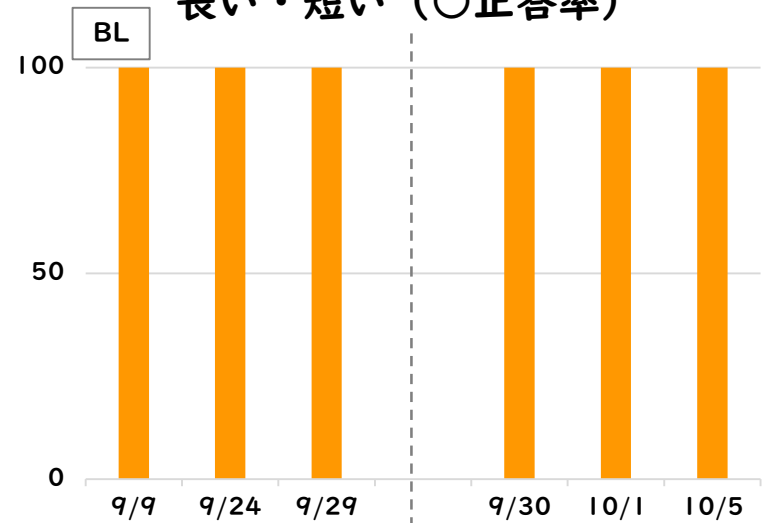


# 指導① Step I の結果

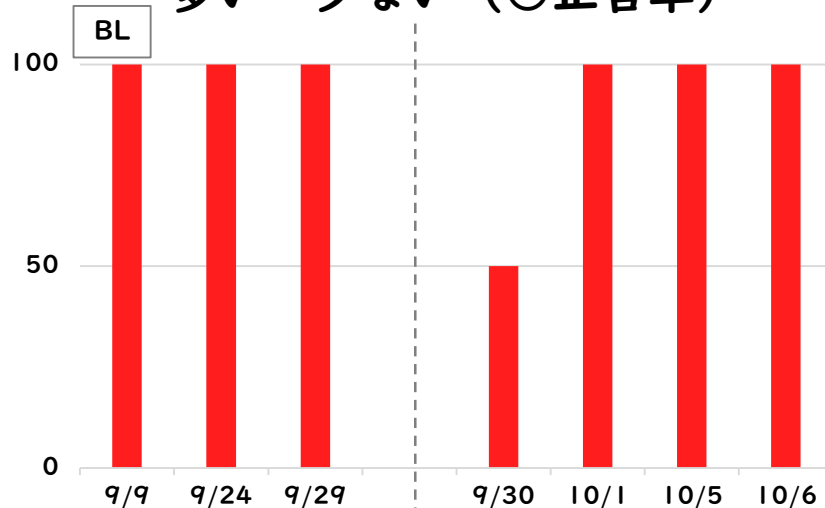
大きい・小さい (○正答率)



長い・短い (○正答率)



多い・少ない (○正答率)



大きい・小さい : 4日目

長い・短い : 3日目

多い・少ない : 4日目

達成

セットの形容詞2単語で

どちらも○ → 100%

うち1個○ → 50%

○が0個 (△×のみ) → 0%

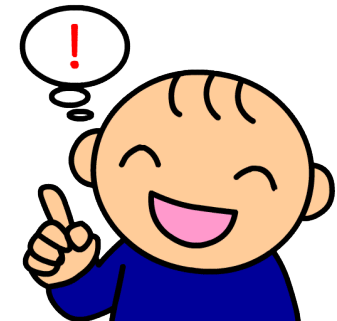
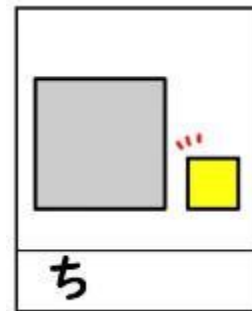
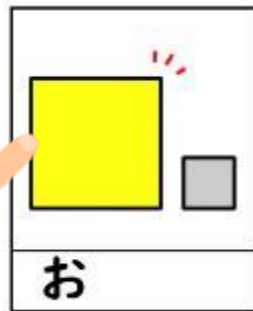


# 指導① Step 2の手だて

## <Step 2>

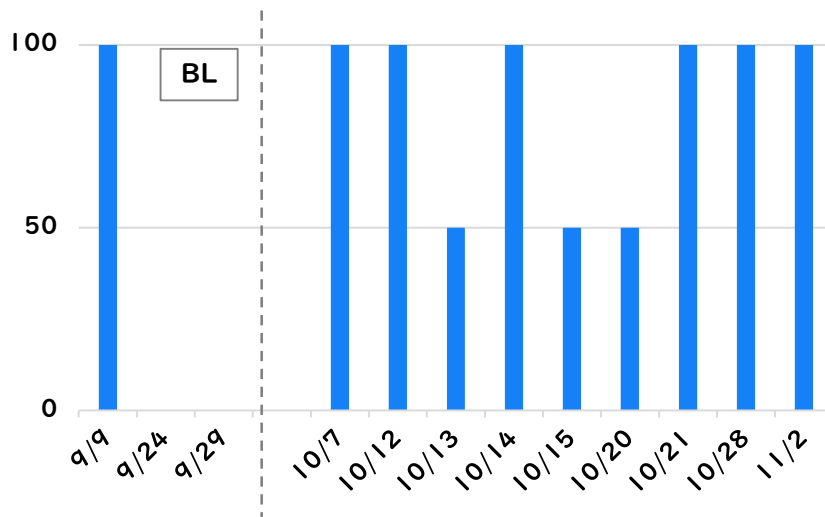
- ・ 語頭音（大きい→お，小さい→ち）のヒント付き形容詞カードを提示する
- ・ 「大きいかな，小さいかな？これは？」と尋ね，うち1枚を指さす。
- ・ 形容詞カードが示す形容詞と異なる単語を言った場合には，語頭音のヒントを指さしながら，再度「大きいかな，小さいかな？これは？」と尋ねる。

大きいかな，小さいかな？ これは？

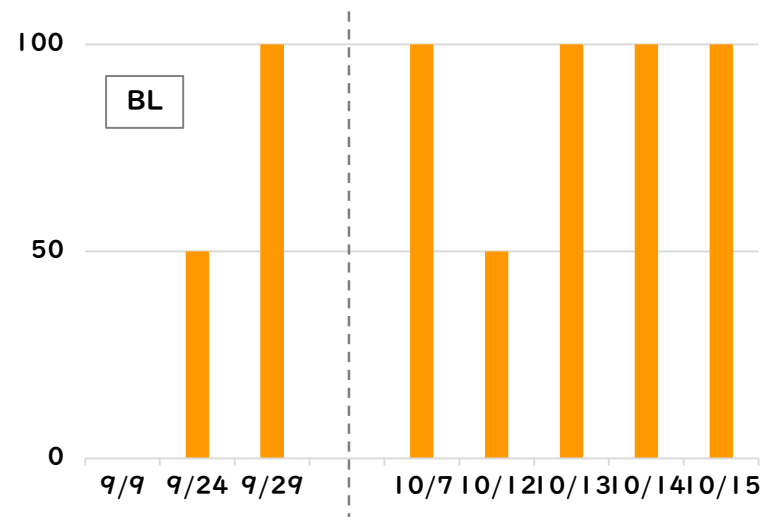


# 指導① Step 2の結果

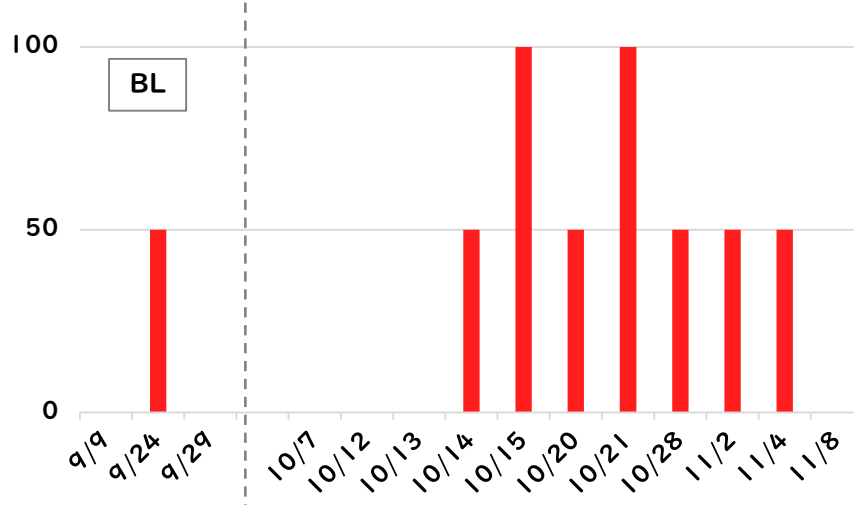
大きい・小さい (○正答率)



長い・短い (○正答率)



多い・少ない (○正答率)



大きい・小さい : 9日目  
 長い・短い : 5日目  
 達成  
 多い・少ない : 未達成

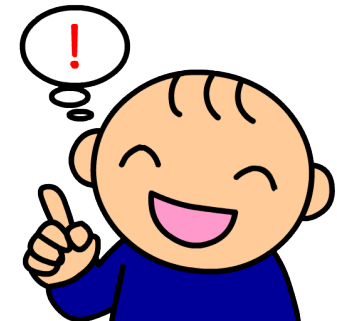
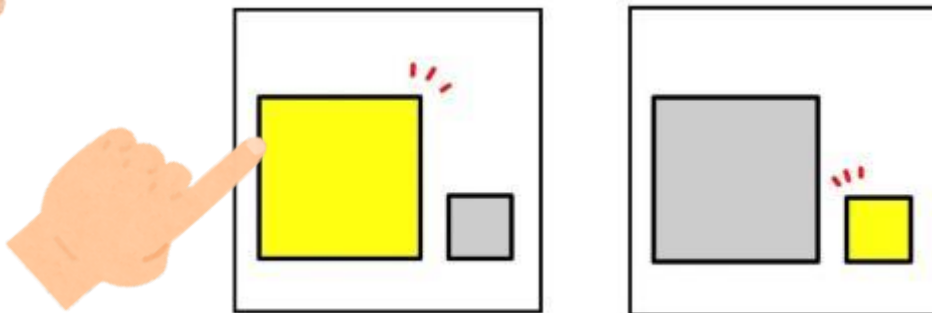
セットの形容詞2単語で  
 どちらも○ → 100%  
 うち1個○ → 50%  
 ○が0個 (△×のみ) → 0%

# 指導① Step 3の手だて

## <Step 3>

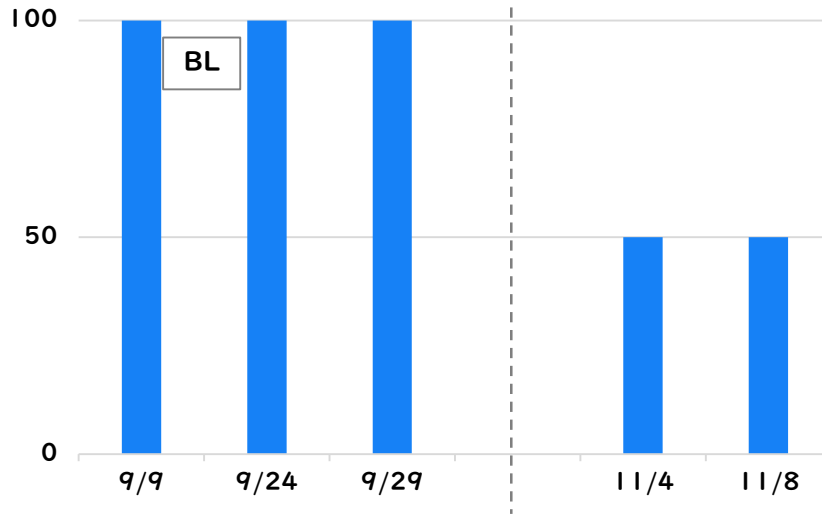
- ・ <Step 1> で使用した形容詞カードを使用する。
- ・ 形容詞カード2枚を提示する。「大きいかな，小さいかな？これは？」と尋ね，うち1枚を指さす。
- ・ 形容詞カードが示す形容詞と異なる単語を言った場合には，再度「大きいかな？小さいかな？」と尋ねた後すぐに語頭音を音声で伝え，ヒントを示す。

大きいかな，小さいかな？ これは？

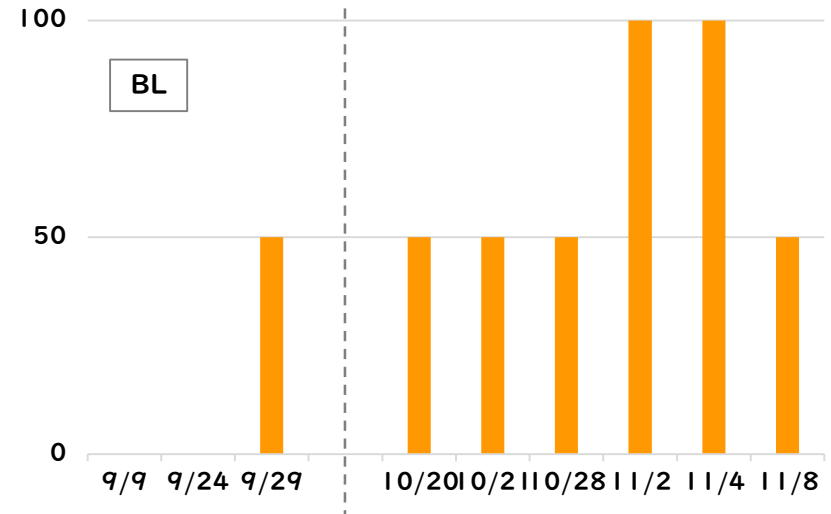


# 指導① Step 3の結果

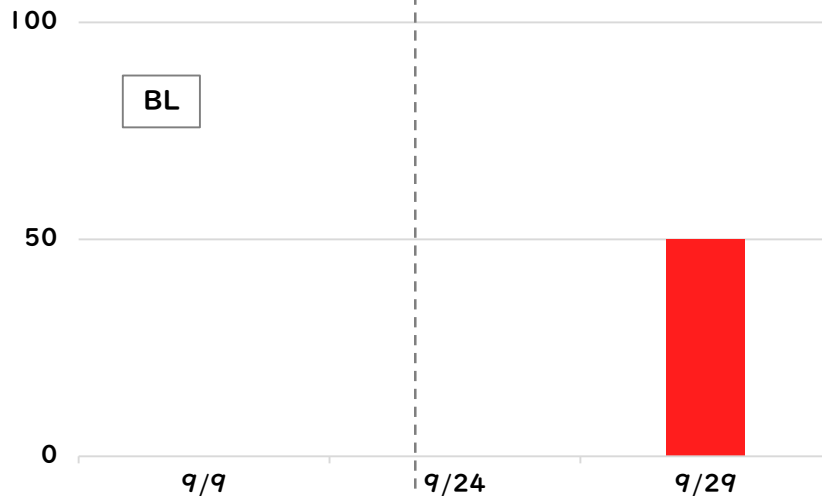
## 大きい・小さい (○正答率)



## 長い・短い (○正答率)



## 多い・少ない (○正答率)



多い・少ないについて、  
Step2未達成のため、未実施。

➡ 他形容詞でも成果が出ず・・・  
アドバイザーに助言いただく

セットの形容詞2単語で  
どちらも○ → 100%  
うち1個○ → 50%  
○が0個 (△×のみ) → 0%

# アドバイザーからの助言

## ①「多い・少ない」について

→ 記録から、「多い」「少ない」という表現が難しいのではないかと推測できる。（多いを「大きい」、少ないを「すい」「すいようび」と回答）  
同義の「いっぱい・ちょっと」に変更して指導する。

## ②教材について

→ 生徒が注目し、理解しやすいよう、教材をイラストカードから具体物へ変更する。

## ③発問の工夫

→ ことばのみで発問するのではなく、形容詞を表すジェスチャーを、大きな手振りで行いながら質問する。

## 指導②

**目 標** 具体物を見て，当てはまる形容詞を答えることができる。

**期 間** 11月9日～1月21日

**指導場面** 課題学習場面

**変更点** 教材をイラストカードから具体物へ変更する。

（ 大きい・小さい → サッカーボール  
長い・短い → ひも  
いっぱい・ちょっと → 水入りペットボトル ）

発問の際に各形容詞を表すジェスチャーを行う。  
指導①で困難だった「多い・少ない」を「いっぱい・ちょっと」に表現を変更して指導する。

※正答時，誤答連続時の対応，具体物を指さす順番については，指導①に準じる。

# 指導② 使用したジェスチャー

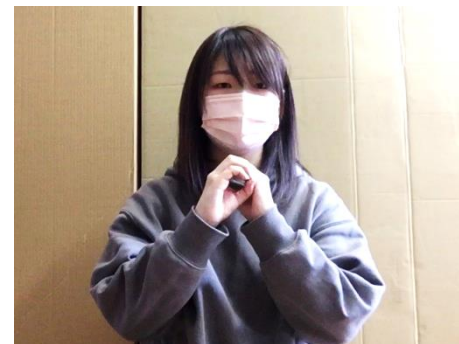
大きい

両手で大きく○



小さい

両手で小さく○



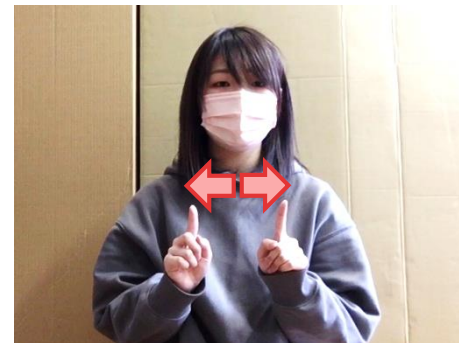
長い

人差し指を立てて  
長く横にスライド



短い

人差し指を立てて  
短く横にスライド



多い

両手を大きな円を  
描くように回す



少ない

人差し指と親指で  
つまむポーズ



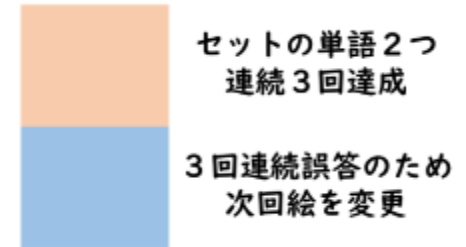
## 指導② 記録の方法

各形容詞ごとに，以下の基準でリストに記録する。

- ヒントなしに，正答できた
- △ ヒントで，正答できた
- × ヒントでも，正答することが難しかった

Step1 「(ジェスチャー有) 大きいのどっち？」

	11月9日	11月11日	11月12日
大きい	○	○	○
小さい	○	○	○
長い	○	○	○
短い	○	○	○
いっぱい	○	○	○
ちょっと	○	○	○



Step2 「(ジェスチャー有) 大きいかな，小さいかな？ これは？」 → ジェスチャー + 語頭音ヒント

	11月9日	11月11日	11月12日	11月16日	11月17日	11月25日	12月1日	12月2日
大きい	○	○	○	△	○	○	○	Step3へ 移行
小さい	○	△	○	○	○	○	○	



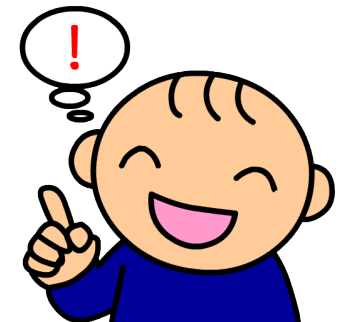
## 指導② Step 1の手だて

### <Step 1>

- ・ 対義の形容詞を示す具体物を提示して，ジェスチャーを行いながら，「大きいの，どっち？」と尋ねる。
- ・ 異なる具体物を指さしたり，反応が見られなかった場合には，正しい具体物を生徒側手前に提示した状態で，再度尋ねる。

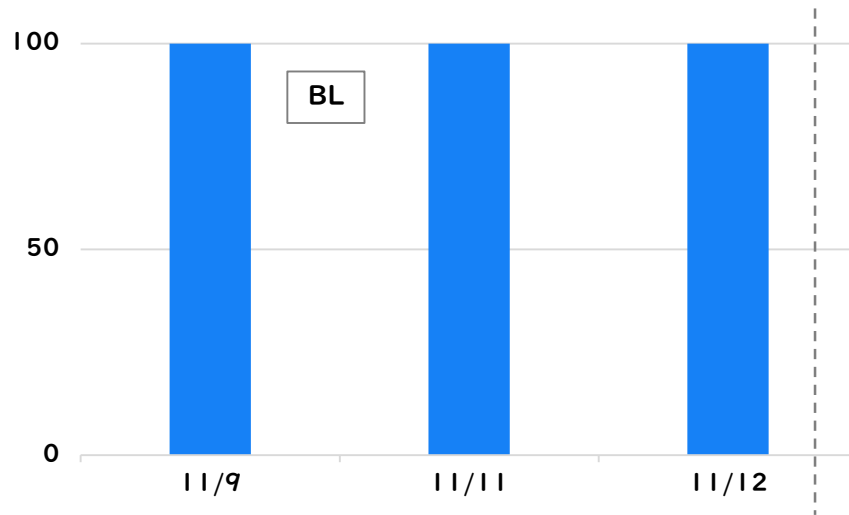
大きいの，どっち？

ジェスチャーつきで，  
質問

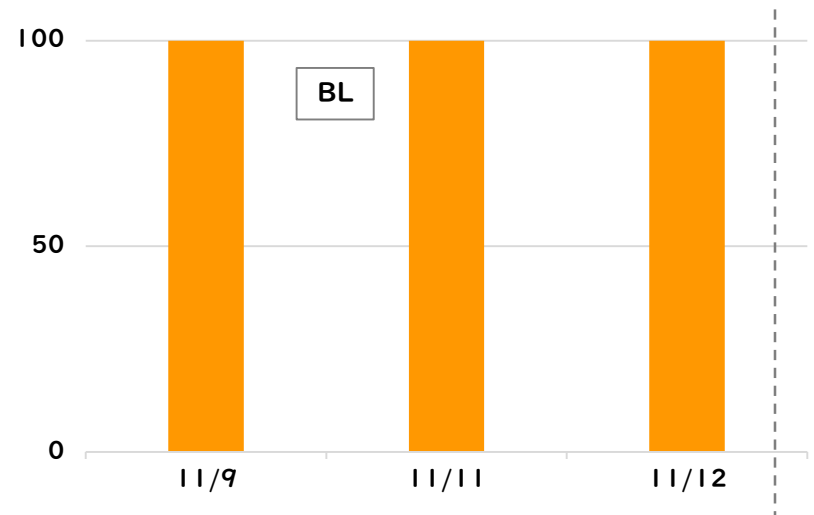


# 指導② Step I の結果

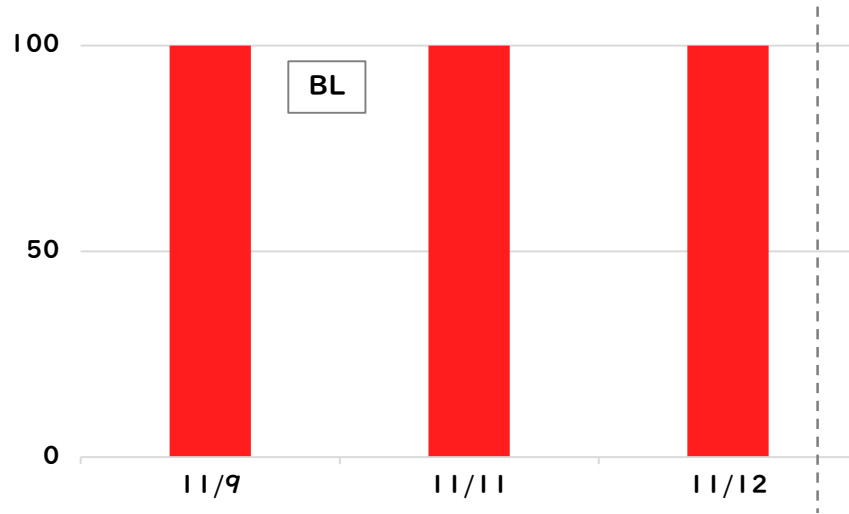
大きい・小さい (○正答率)



長い・短い (○正答率)



多い・少ない (○正答率)



ベースライン時点で  
全形容詞正答のため、  
Step 2 から指導開始した。

セットの形容詞 2 単語で  
どちらも○ → 100%  
うち 1 個○ → 50%  
○が 0 個 (△×のみ) → 0%

## 指導② Step 2の手だて

### <Step 2>

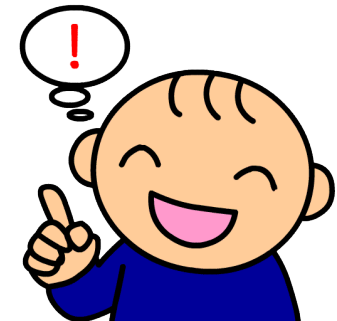
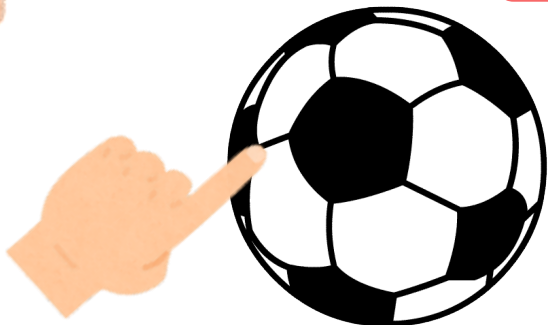
- ・ 対義の形容詞を示す具体物を提示し，ジェスチャーを行いながら，「大きいかな，小さいかな？これは？」と尋ね，うち1つを指さす。
- ・ 即時に正解のジェスチャーと音声（語頭音）ヒントを示す。
- ・ 異なる単語を言った場合には，再度質問した後，音声ヒントの語数を増やして示す。（大きい→「おお」）

大きいかな，小さいかな？ これは？

ジェスチャー  
つきで，質問

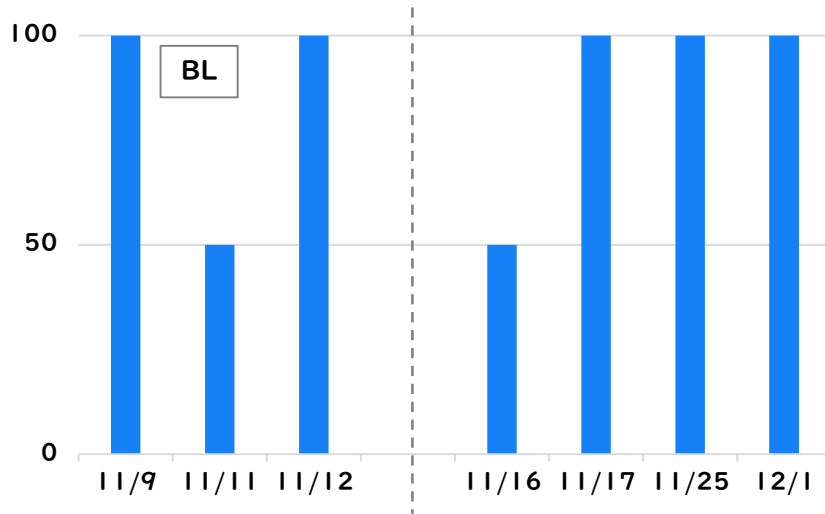
「お」

+ 「大きい」のジェスチャー

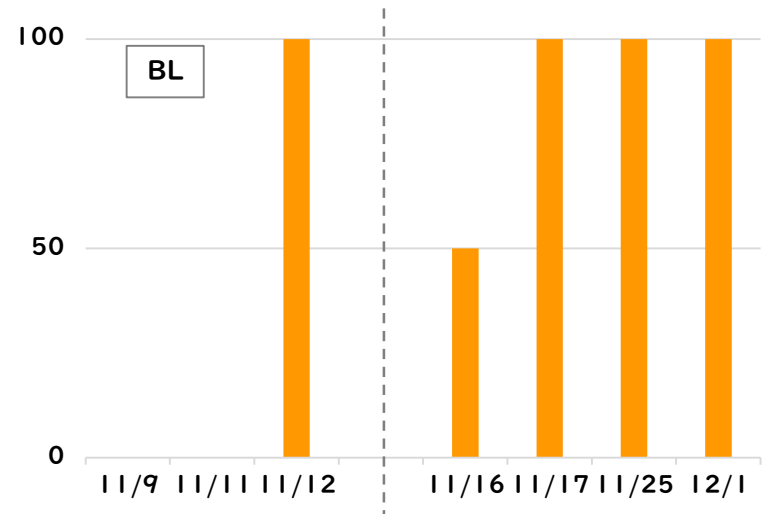


# 指導② Step 2の結果

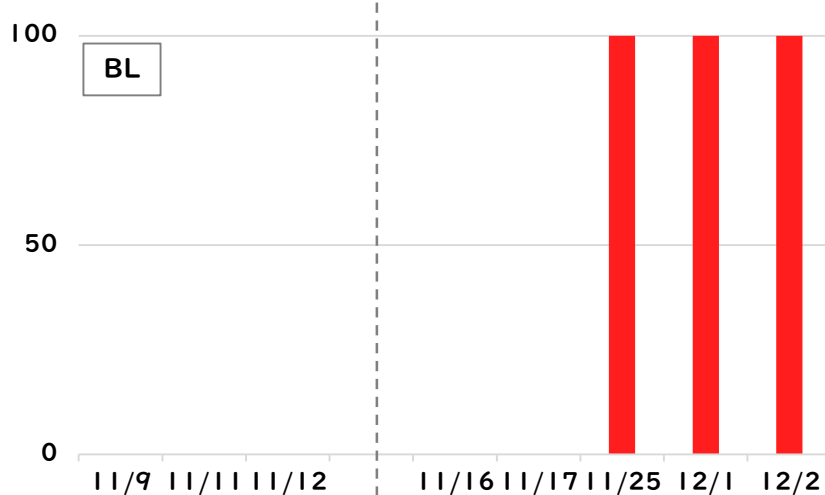
大きい・小さい (○正答率)



長い・短い (○正答率)



多い・少ない (○正答率)



大きい・小さい : 4日目  
 長い・短い : 4日目  
 いっぱい・ちょっと : 5日目  
 達成

セットの形容詞2単語で  
 どちらも○ → 100%  
 うち1個○ → 50%  
 ○が0個 (△×のみ) → 0%

## 指導② Step 3の手だて

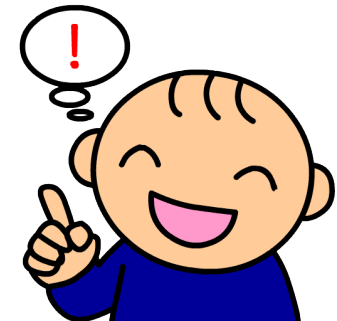
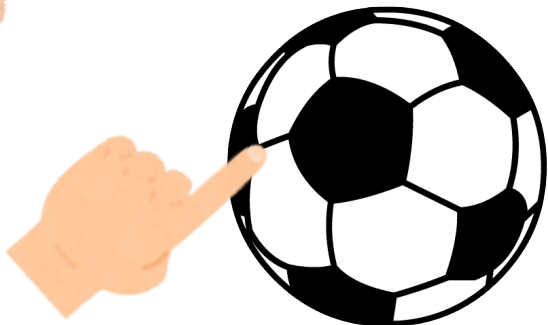
### <Step 3>

- ・ 対義の形容詞を示す具体物を提示し，ジェスチャーを行いながら，「大きいかな，小さいかな？これは？」と尋ね，うち1つを指さす。
- ・ 異なる単語を言った場合には，再度質問した後，音声（語頭音）ヒントを示す。



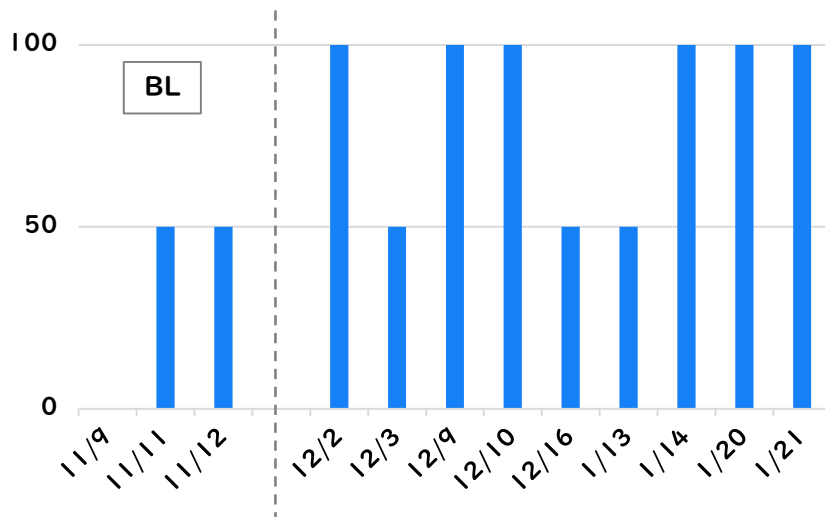
大きいかな，小さいかな？ これは？

ジェスチャー  
つきで，質問

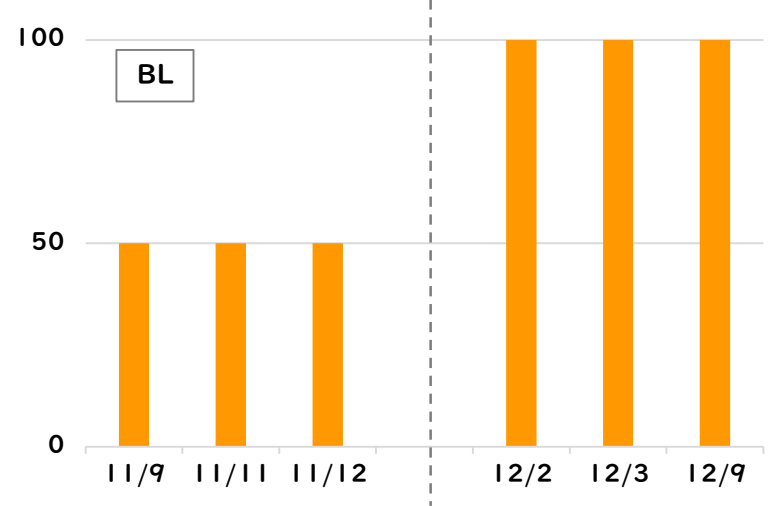


# 指導② Step 3の結果

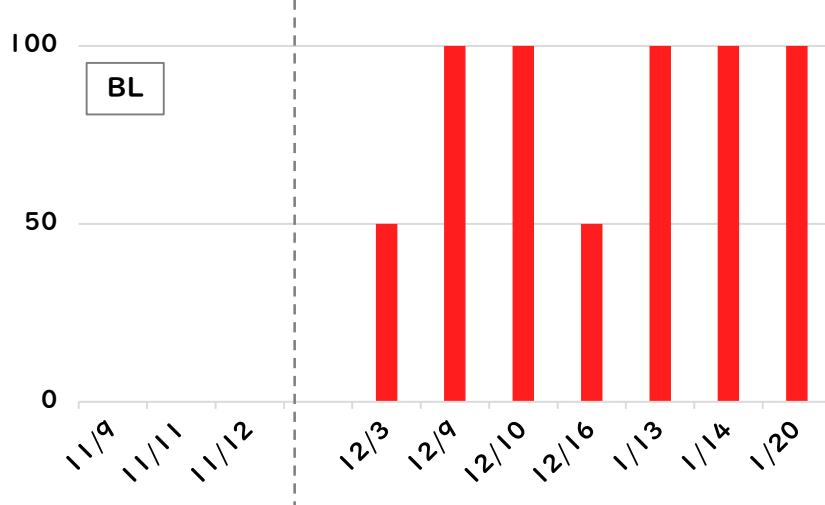
大きい・小さい (○正答率)



長い・短い (○正答率)



多い・少ない (○正答率)



大きい・小さい : 9日目  
 長い・短い : 3日目  
 いっぱい・ちょっと : 7日目  
 達成

セットの形容詞2単語で  
 どちらも○ → 100%  
 うち1個○ → 50%  
 ○が0個 (△×のみ) → 0%

# 般化

**目 標** 具体物を見て，当てはまる形容詞を答えることができる。（指導②で使用した具体物以外）

**期 間** 12月21日～2月4日

**指導場面** 課題学習場面

**指導方法** 対義の形容詞（大・小等）のセットで指導する。セットの形容詞2つとも3回連続正答できたら達成とする。

**具体物** 大きい・小さい → 絵本・文庫本  
長い・短い → 長袖体操服・半袖体操服  
いっぱい・ちょっと → お茶の入ったコップ

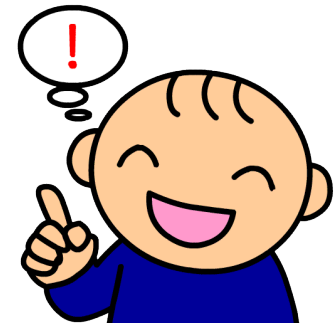
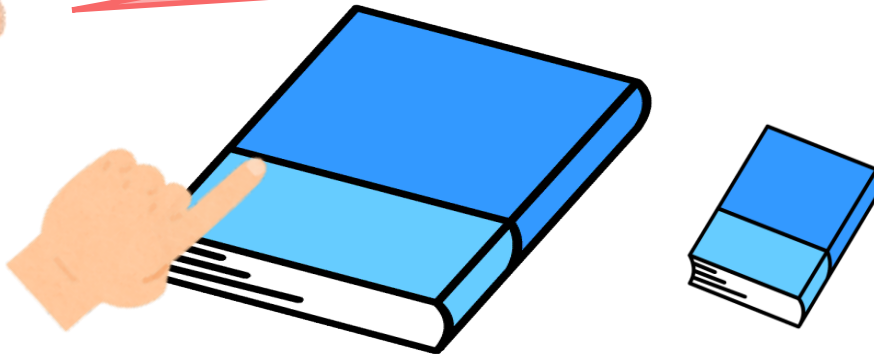
# 般化の手だて

- 対義の形容詞を示す具体物を提示し，ジェスチャーを行いながら，「大きいかな，小さいかな？これは？」と尋ね，うち一つを指さす。
- 異なる単語を言った場合には，再度質問した後，音声（語頭音）ヒントを示す。
- 正答時，誤答連続時の対応，具体物を指さす順番については，指導①および指導②に準じる。



大きいかな，小さいかな？ これは？

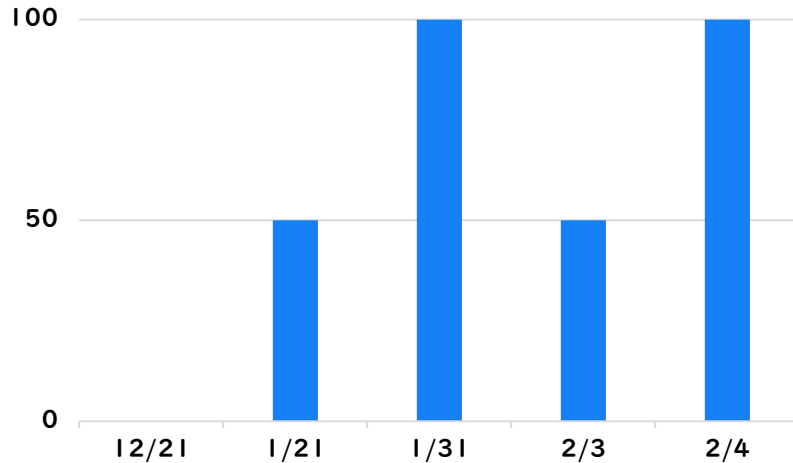
ジェスチャー  
つきで，質問



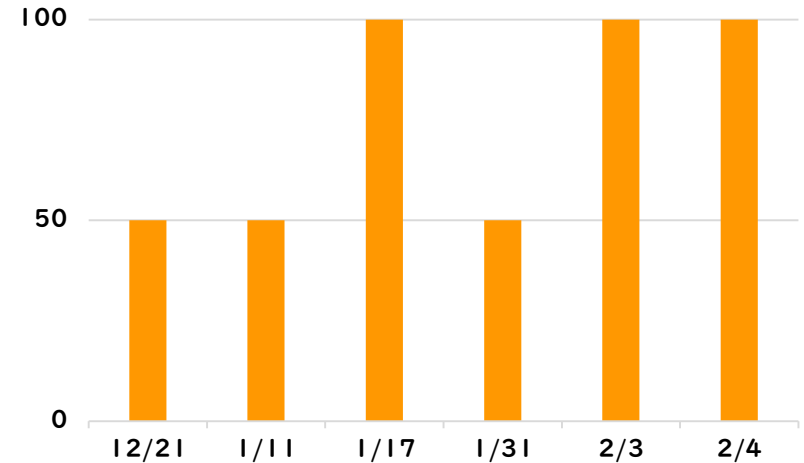


# 般化の結果

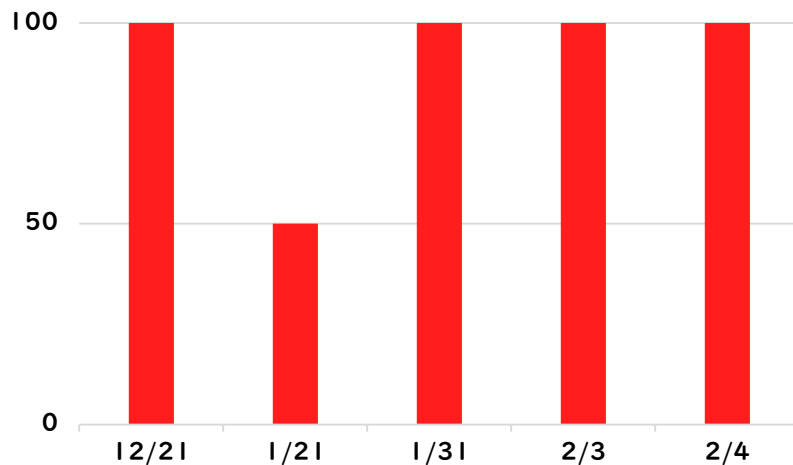
大きい・小さい (○正答率)



長い・短い (○正答率)



多い・少ない (○正答率)



セットの形容詞2単語で  
どちらも○ → 100%  
うち1個○ → 50%  
○が0個 (△×のみ) → 0%

→ 0%

# 指導の成果

- ・ 指導②では、すべての形容詞で指定の基準を達成することができた。しかし達成後しばらく期間を置くと誤答となってしまうことがあり、繰り返しの指導が必要である。
- ・ 般化目標では、達成に至った形容詞が「いっぱい・ちょっと」の1セットだったが、各形容詞のセットで正答率が増してきた。継続して指導することで、「大きい・小さい」「長い・短い」の形容詞でも、達成に至ると考えられる。
- ・ 般化で指定した具体物の他に、本生徒の顔写真カードの大小やケースに入った積み木の多少について質問したところ、学習した形容詞を使って答えることができる場面もあった。
- ・ 水筒のふたを開けられないときに「固いな」や、暗い教室の電気が点いたときに「明るいな」等、未学習の形容詞を使った表出も見られるようになってきた。

# 成功のポイント

- 対象生徒の実態（注意散漫傾向で注目が逸れやすい）を踏まえ、使用する教材をカードから具体物へ変更したことで、教材への注目することができ、正答できる場面が増えた。
- ジェスチャーをつけて発問することで、対象生徒がジェスチャーを真似たり、教員の発問に合わせて「大きいかな～小さいかな～」と一緒に言ったりして、楽しみながら学習することができ、スムーズな習得に繋がった。

